

Sunrise Foursquare Church - Easter 2017

3月の末に、孫のエブンが2歳になったので娘夫婦の居るコロラドへと主人と2人で出かける事にした。飛行機でL.Aからデンバーまでは2時間余りで、飛行中はロツスキー山脈の連峰が雪で覆うわれ、まるで尖り帽子を被った大きな人形達が仲良く手を引いているようでもあった。心浮き浮きしているせいか心持ちふらつくのを感じた。後で娘が、「マームここは標高が高いから、水を沢山飲まないとね」と言われなるほどと思わされた。

エブン君は、走り回り、飛び回り言葉は片言だがグランパー、おばあちゃんと言っているようでとても喜んでいて。気候はL.Aとあまり変わりなかったが、「近い内、雪が降るよ」と言っていた。コロラドと言えば色々な歌の発祥地でもある。アメリカ第2国歌と呼ばれている『アメリカ ビューテール』、ハンクスノー、ジョンウインバー達の歌うカントリーソング、さらにあらゆる宗教のメッカでもあったのには驚いた。

色々な方々からお招きを頂きはなはだ恐縮な思いもした。と言うのは娘の会社の社長御夫妻が来て、いや今でも熱心なクリスちゃんて話が意気投合し、御夫妻の家の各部屋を聖めて欲しいと頼まれたからである。地下室、二階、離れ家その他、20以上の部屋を讚美しつつ、禱りの散歩？いや禱りのマーチ？をしていてまるで霊界が突然開き、秘密舞台を覗き見した気持ちで胸が熱く成り暖まる思いをしたからである。

L.Aに帰る前に娘夫婦に連れられて一泊旅行へと出かけた。山のキャビンに到着する迄車がガタゴト揺れ吐き出しそうに成り頭痛がして来た。ああ、これは、「あかん」と思ったが皆楽しそうなのであえて迷惑をかけない様にした。部屋に着くや否や吐き出し、食べれず、飲めず泣くに泣けず、堪えにこらえきれず、あちこち痛み出し、ベットの上に這いつくばってもどうにもならず、力つきて、立てず歩めず朝の来るのを待つのみ。一秒、一分の長い事長い事、時計様に「おい、おい進め、進め！何をぼやついていやがると喚いても、一向におかまいなしなのだ」胸がちくちく痛み出し摩っていたが、ぬるま湯にコーフドロップを入れて横になっているとうとうととし、朝のしじまがたなびて来た。ベットの下に横たわり早天を始めその日の聖書箇所（ホセア6：1、2 主は私達を打たれたが、又包んで下さるからだ。主は2日の後、私達を生かし、3日目に私達を立たせられる）を読んでいてはっとした。この箇所は主の復活の事である。思えば今はレントシーズンの時期なのだ。復活の日、イースターまで断食、節制をしつつ主の御苦しみを味わう時であった。知らずに主の痛みを背負わされていたのかもしれないと思いつつ山を下りた。急いで山を下りると耳鳴りも止まり、頭痛も無く成り、スツキリして食事もとれる様に成り我が家のあるL.Aへと向かった。

皆さん方もぜひ楽しいイースターをお迎え下さい

お知らせ

16日 午前10時半イースター礼拝：杏里、マークによる特別ダンス
ポットラックランチ

22日午前7時 グラージセール

30日（日）10時半礼拝後癒し集会